

1 「宮田の自然史物語」の内容

- 第1章 海
- 第2章 砂丘
- 第3章 低湿地（布勢の水海）
- 第4章 台地
- 第5章 二上山丘陵
- 第6章 地球の歴史と宮田の地層

2 主な内容

第1章 海

二節 海藻

浜に大量にあがるものは何か。どこから来たのか。

・ホンダワラ類が大量に打ち上げられます。5月中旬頃から切れて流れ藻となり海面を漂います。 図 3

・アマモもからまっています。さぞかし、海には海藻が茂っているのでしょうか。

・天草も打ち上げられます。天草は、赤い色をしていますが、夏、天日干しにすると脱色されて薄茶色になります。ゆでて固めるとトコロテンになります。

三節 生き物

浜辺に鳥が集まるのはなぜか、浜辺に鳥のえさとなるものがあるのか

・浜辺には、嵐の後に魚が打ち上げられます。時には大量に打ち上げられます。それをえさにたくさんの鳥の群れが集まってきます。鳥の集団が浜辺に舞っているときは、大量の魚が打ち上げられていることがあります。幅1 m、距離100 mにわたって魚の集団が上がる時もあります。深海の珍しい魚も上がります。鳶や鷲はどういうわけか、眼や内臓を先に食べます。

・魚、イカ、カニ、貝が打ち上げられます。 図 5

・海藻にも小さい生き物がたくさん付着しています。

四節 漂着物

流木や生活ゴミはどこから

・ゴミは砂浜の波打ち際にあったり、砂浜の高いところにあたりします。どうしてちがいがあのでしょうか。

・神通川上流の岐阜県で集中豪雨、そして土石流が発生したとき、大量の流木が海岸に打ち上げられました。生活ゴミも河川から海に流れ、打ち上げられます。

・川と海がつながっています。ゴミだけでなく大量の土砂も海に流れ込んでいます。波の力が砂やゴミ、流木を浜の上まで押し上げます。

第2章 砂丘

一節 渚の地形

波打ち際がところどころシマシマになっているのは

- ・寄せる波、引く波の作用で、縞々模様ができます。弓形の形が浜辺に残ります。
- ・寄せる波の強いところ、引く波の強いところ、波は渦のように回転しています。
- ・波打ち際に、こんもりした砂山が交互に堆積します。 図 1

浜辺が急斜面になっているときは

- ・波が高いところまで打ち上げ、急斜面をつくり、砂やゴミを高くまで押し上げ、逆に波打ち際には激しく砂を削り掘ります。嵐の後は、ゴミの場所で嵐の強さが分かります。
- ・波の弱いとき、波打ち際に海藻や砂が堆積します。

二節 砂丘の植物

砂丘には、どんな花が咲くのか

- ・海浜植物の種子が波によって運ばれることが多いので、砂浜で海浜植物を見ることがができます。
- ・弘法大師のコウボウムギ、コウボウシバ、海浜植物の代表的なハマヒルガオ、砂の上に点々と葉を伸ばすハマニガナ、食用にされるハマボウフウなどが根を張っています。
- ・乾燥し、海水がかかり、砂が打ちつける厳しい環境で生き抜いています。

三節 砂浜の河口

泉川の水は、どこから流れてきているのか

- ・二上丘陵の西側斜面の水を集め田子台地の間を北に流れ、上泉で底地帯に入ります。昔は、十二町潟に注いでいたが、現在は上泉で東に折れて、段丘の先端（泉の杜）を迂回して島尾の低地帯を抜け、砂丘地帯を横切って海に注いでいます。上泉より下流は人工河川です。

泉川の河口はどのようになっているか

- ・海が荒れているときの川面はどうなっているか
- ・波による砂の打ち上げで、流路は絶えず変わり、時々ふさがります。河口の砂の移動が見られます。

- ・河口に堆積した砂を時々重機でほりあげています。

河口の縞々（しましま）

- ・水の流れが縞々模様をつくります。
- ・砂浜の中にも縞々が地層のようです。
- ・粗い砂、細かい砂、明るい色の砂、黒っぽい色の砂の様子が見られます。砂の中も地層のようです。

第3章 低湿地(布勢の水海)

二節 水田泥炭調査

水田の下はどうなっているか

- ・島尾砂丘の内側、尾崎台地（宮田小学校のある台地）との間にある水田地帯は海拔 1 m 以下の低湿地で、かつて十二町潟に続く沼地でした。
- ・明治 40 年ころ、村人の手で新川が掘られ排水がよくなりました。

- ・昭和の土地改良以前は大雨毎に冠水しましたが、泉川が改修され、最近の水はけがよくなりました。
 - ・島尾湿地帯の水田面下1 m ~ 3 mには、アシなどが炭化した泥炭層が広がっており、かつてここが沼沢地であったことを物語っています。
 - ・春、トラクターで田起こしすると、深みから炭化したヨシやアシなどが見つかります。
 - ・炭化したヨシやアシを割ると内部が明るい茶色ですが、5分もすると直ぐ黒く酸化します。
- 図 7

第4章 台地

三節 断層（宮田小学校の横：窪層 12万年前）

窪層（12万年前）

- ・間氷期の海面上昇期に堆積した窪層は、窪台地や朝日山台地など氷見南部の中位段丘（高さ30 m ~ 50 m）を形成しています。下田子、上泉、宮田、島尾に分布しています。
- ・ほぼ水平に堆積しています。
- ・粒のそろったきれいな砂です。

断層（宮田小学校の横：窪層 12万年前）

- ・地層をよく見ると断層があります。
 - ・断層はどうしてできるのでしょうか。
- 図 6

四節 砂利層（上田子土砂採掘場：西田層 50 ~ 100万年前）

西田層（50 ~ 100万年前）

- ・氷見では朝日山付近から以南、海老坂峠一帯に入江が広がり、西田層が堆積しました。西田層下部の泥層からヨコハマチョウガイのような内湾性貝化石、中部からシジミの化石、上部からコメツガの化石が出土することから、次第に海域から淡水域に変わり陸化していったことがわかります。

五節 貝の化石（十二町層 150万年前）

朝日山から十二町方面、小竹や宮田でわずかに露出

- ・西田層の下にくる層です。
- ・貝の化石が地層から発見されます。
- ・浅い海底でした。

五十里 堀田 朝日山

六節 生命の痕跡

田子の地層

- ・コマツキャストックの駐車場の溝をよく見ると不思議な模様がありました。
 - ・生き物の痕跡です。かつて水底の泥に棲んでいた生き物の巣穴と思われます。
- 図 8

第5章 二上山丘陵

二上山（城山）から見た田子台地は、国道160号線の両側に台地となって広がっています。

- ・田子台地、上泉台地
 - ・台地は平野のように平らになっています。
- 図 4



深海魚
図 1



砂丘段差
図 2



漂着藻
図 3



図 4



イカ



断層



泥炭調査
図 7



図 8
生命の痕跡



水田
泥炭
調査



切断